風船毬

眞白に細き御手により、
振りの御袂立ち出でゝ
そと見まつれば姫君の
笑みの御顔をうつくしう、
毬よ昇れとかしげます。
晝月淡く後園の、
黄菊白菊咲きみちて、
香りは高し吾があたり、
清き御息に身も輕う、
思はず舞ひ出づる御手の上、
さらば姫君數へませ、
高く音よく舞ふ吾れを、
一ィ　二ゥ　三ィ　四ゥ　五ィ　六ゥ　七ァ、

底本：「水野仙子全集」第五巻
初出：「少女界」明治三十七年第十一號
テキスト入力：小林　徹
公開：令和三年九月二十九日

リンク：作品年譜へもどる